

$$\left(\overset{1}{\text{退職金} - \text{退職所得控除額}} \right) \times 1/2 \times \text{税率} \left(\begin{array}{l} \text{市民税 6\%} \\ \text{県民税 4\%} \end{array} \right) \times \overset{2}{0.9} = \text{退職所得に対する住民税}$$

↓
退職所得の金額...

1 退職所得控除額

勤続年数	退職所得控除額	
20年以下の場合	40万円 × 勤続年数	最低 80万円
20年を超える場合	70万円 × (勤続年数 - 20年) + 800万円	

- (注) ・1年未満の端数は切り上げます。
 ・障害者になったことに直接起因して退職した場合は100万円が加算されます。

2 退職所得に対する住民税の税額は、退職所得の金額()に、税率(市町村民税 6%、道府県民税 4%)を適用して計算しますが、当分の間は、そうして求められた税額から10%に相当する金額を控除するものとされています。

具体的な計算の流れ

退職所得の金額 (注)1	×	<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">税率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">市町村民税 (特別区民税)</td> <td style="text-align: center;">道府県民税 (都民税)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6%</td> <td style="text-align: center;">4%</td> </tr> </tbody> </table>	税率		市町村民税 (特別区民税)	道府県民税 (都民税)	6%	4%	=	<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">税額 (注)2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">市町村民税額 (特別区民税額)</td> <td style="text-align: center;">道府県民税額 (都民税額)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(A)</td> <td style="text-align: center;">(B)</td> </tr> </tbody> </table>	税額 (注)2		市町村民税額 (特別区民税額)	道府県民税額 (都民税額)	(A)	(B)
税率																
市町村民税 (特別区民税)	道府県民税 (都民税)															
6%	4%															
税額 (注)2																
市町村民税額 (特別区民税額)	道府県民税額 (都民税額)															
(A)	(B)															
		×	0.9 =	<table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">退職所得に対する住民税 (注)3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">市町村民税額 (特別区民税額)</td> <td style="text-align: center;">道府県民税額 (都民税額)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(C)</td> <td style="text-align: center;">(D)</td> </tr> </tbody> </table>	退職所得に対する住民税 (注)3		市町村民税額 (特別区民税額)	道府県民税額 (都民税額)	(C)	(D)						
退職所得に対する住民税 (注)3																
市町村民税額 (特別区民税額)	道府県民税額 (都民税額)															
(C)	(D)															

- (注) 1 退職所得の金額(収入金額から退職所得控除額を差し引いた後の金額に2分の1を乗じて得た額)に、千円未満の端数がある場合は、千円未満の金額を切り捨てます(退職所得の金額は、1,000円単位)。
 2 市町村民税額(A)、道府県民税額(B)は、端数処理を行いません。
 3 退職所得に対する住民税(市町村民税額(C)、道府県民税額(D))に、百円未満の端数がある場合は、それぞれ百円未満の端数を切り捨てます(退職所得に対する住民税は100円単位)。

計算例 勤続年数 24 年 2 か月、退職金 14,223,632 円の場合。

退職所得控除額の計算

勤続年数は 25 年になります。(2 か月は 1 年に切り上げます。)

$700,000 \text{ 円} \times (25 \text{ 年} - 20 \text{ 年}) + 8,000,000 \text{ 円} = 11,500,000 \text{ 円}$

退職所得の金額 (千円未満切捨て)

$(14,223,632 \text{ 円} - 11,500,000 \text{ 円}) \times 1/2 = 1,361,816 \text{ 円}$

1,361,000 円

	市町村民税	道府県民税
10%控除前の税額	$1,361,000 \text{ 円} \times 6\% = 81,660 \text{ 円} (A)$	$1,361,000 \text{ 円} \times 4\% = 54,440 \text{ 円} (B)$
10%を控除	$81,660 \text{ 円} \times 0.9 = 73,494 \text{ 円}$	$54,440 \text{ 円} \times 0.9 = 48,996 \text{ 円}$
退職所得に対する住民税 (百円未満切捨て)	73,494 円 73,400 円 (C)	48,996 円 48,900 円 (D)
合計	$(C) + (D) = 122,300 \text{ 円}$	